

(令 和 5 年 版)

大分県における救急の現況

大分県生活環境部防災局消防保安室

令和5年版「大分県における救急の現況」の要点

1 救急業務の実施状況

(1) 救急出動件数及び救急搬送人員ともに増加

令和4年中の救急自動車の救急出動件数は、前年に比べ7,777件増(14.8%増)の60,150件、救急搬送人員は、前年に比べ5,678人増(11.9%増)の53,187人となった。

(2) 管外搬送人員は減少

令和4年中の消防本部が自らの管轄地域外の医療機関に搬送した人員(管外搬送人員)は、前年に比べ2,132人減の9,779人で、全救急搬送人員に占める管外搬送人員の割合は、18.4%(前年比6.7%減)となった。

消防本部の管轄地域と2次又は3次医療機関の所在地との相関で、消防本部間の差が顕著となっている。

(3) 現場到着までの平均所要時間及び病院収容までの平均所要時間はともに長く

令和4年中の現場到着までの平均所要時間は、前年に比べ0.3分増の9.4分、病院収容までの所要時間は、前年に比べ1.6分増の40.3分となった。

なお、令和4年中の全国の現場到着までの平均所要時間は10.3分、病院収容までの平均所要時間は47.2分となっている。

2 救急搬送の状況

(1) 事故種別の搬送人員は、「急病」が依然として半数以上

令和4年中の事故種別の搬送人員では、「急病」が前年に比べ4,177人増の32,163人で、全体の60.5%を占めており、依然として高い割合となっている。

(2) 年齢区分別の搬送人員は、「高齢者」が69.9%を占める

令和4年中の年齢区分別の搬送人員では、「高齢者」が前年に比べ4,092人増の37,179人で、全体の69.9%を占めており、全国の62.1%を7.8ポイント上回っている。

(3) 傷病程度別の搬送人員は、「中等症」と「軽症」が高い割合

令和4年中の傷病程度別の搬送人員では、「中等症」が前年に比べ、2,473人増の26,961人で、全体の50.7%を占めており、全国平均の43.5%を7.2ポイント上回っている。

「軽症」は、前年に比べ2,572人増の17,478人で、全体の32.9%を占めており、全国平均の47.3%を14.4ポイント下回っている。

3 救急業務の実施体制

(1) 救急隊員数、救急救命士数ともに増加

令和5年4月1日現在における救急隊員数は、前年に比べ33名増加し749名で、そのうち救急救命士の資格を有する職員は、前年に比べ22名増の378名となっており、救急隊員数に占める割合は50.5%となっている。

出動する隊員のうち少なくとも1名が救急救命士である「救急救命士運用隊」の数は60隊で、全救急隊数に占める割合は100%となっている。

※救急隊員数及び救急救命士数は、専任救急隊員及び救急隊員としての辞令の交付を受けているが、他の消防用自動車と乗換運用している者の合計数

(2) 高規格救急自動車数は前年同数、導入率は全国平均を上回る

令和5年4月1日現在の救急救命士による高度な処置が可能な「高規格救急自動車」台数は75台で、全救急自動車台数75台に占める割合は100%となり、全国の平均導入率98.3%を上回っている。

4 救急救命措置の実施状況

(1) 救急救命士による特定行為実施件数の増加

令和4年中における救急救命士による特定行為実施件数は、前年に比べ472件増の2,637件となっている。

(2) 消防機関による救急救命講習の実施

令和4年中における救急救命講習を受講した住民は、前年に比べ29人減の4,242人となっている。

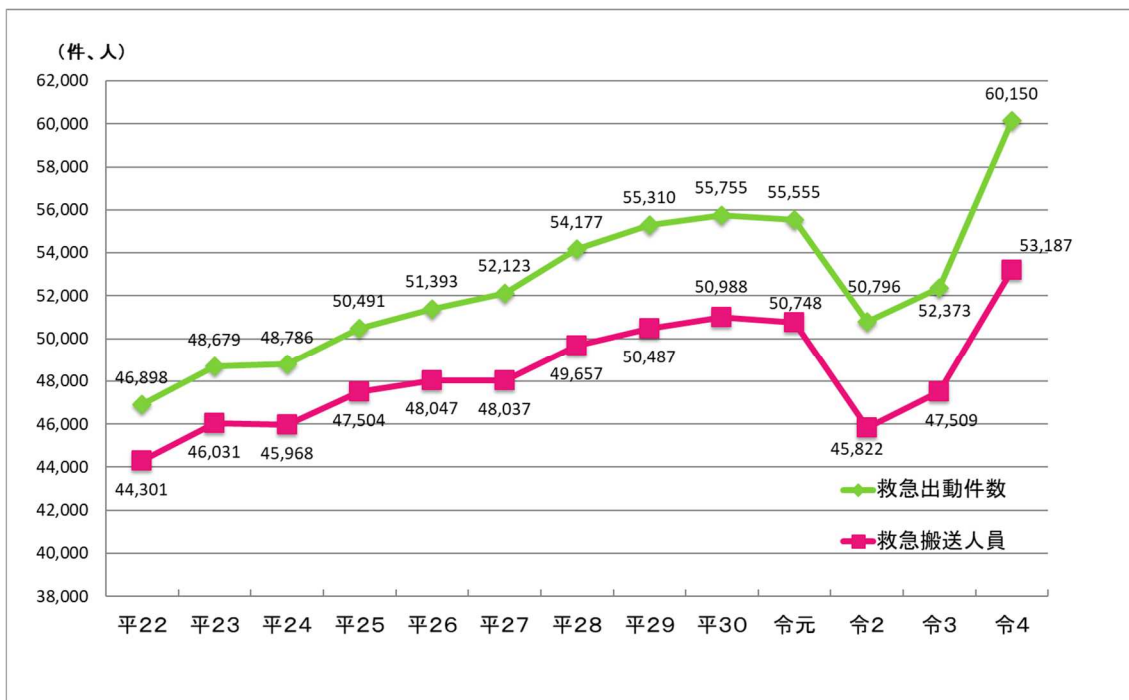
1 救急業務の実施状況

【令和4年中における救急業務の実施状況】	
1. 救急出動件数	60,150 件 (前年比 7,777 件増)
2. 救急搬送人員	53,187 人 (前年比 5,678 人増)
3. うち管外搬送人員	9,779 人 (前年比 2,132 人減) 【総搬送人員に占める割合 18.4 % (前年比 6.7 ポイント減)】
4. 現場到着所要時間	9.4 分 (前年比 0.3 分増) 【全国平均 10.3 分】
5. 医療機関収容所要時間	40.3 分 (前年比 1.6 分増) 【全国平均 47.2 分】

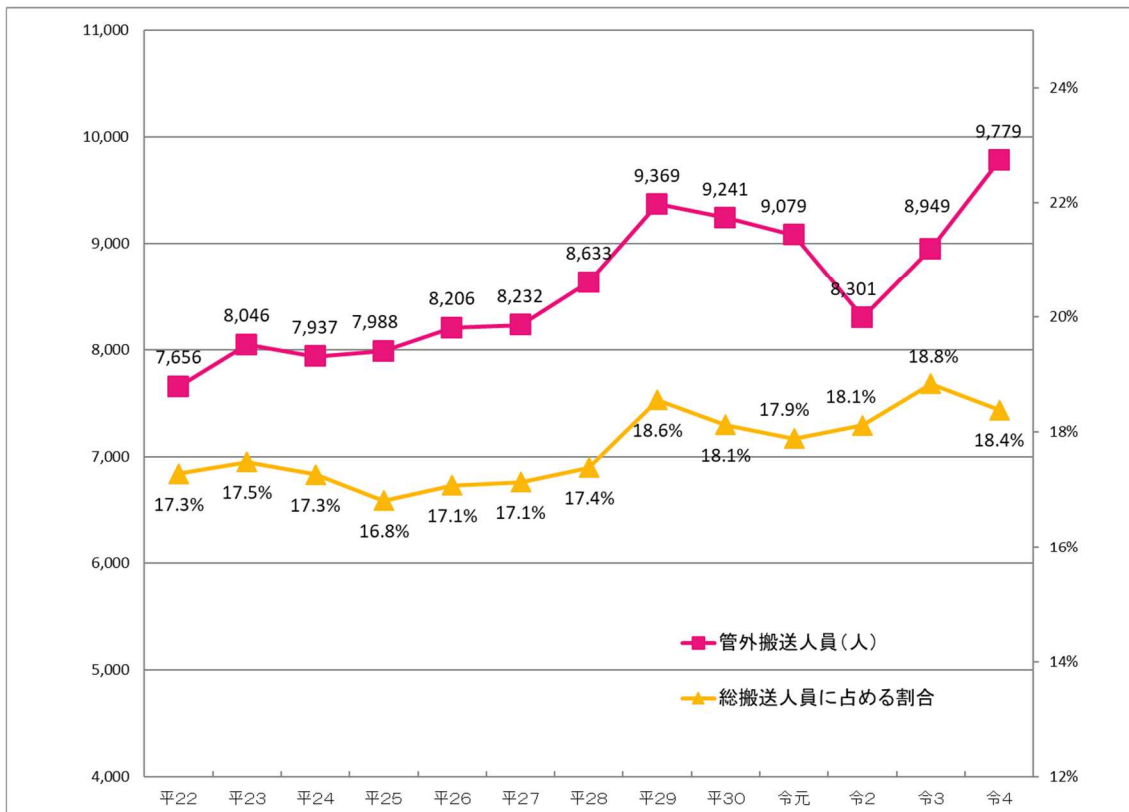
第1表 各消防本部における救急出動件数及び救急搬送人員 (単位: 件、人)

消防本部	救急出動件数 (件)		救急搬送人員 (人)				管外搬送率 b/a(%)	
		前年比	(a)	前年比	うち管外搬送 (人)(b)	前年比		前年比
大分市消防局	21,800	3,035	17,922	1,686	728	△ 2,912	4.1%	△ 18.4
別府市消防本部	7,714	1,231	6,700	880	194	78	2.9%	0.9
中津市消防本部	4,627	619	4,257	523	540	63	12.7%	△ 0.1
佐伯市消防本部	3,524	485	3,340	495	331	24	9.9%	△ 0.9
臼杵市消防本部	2,391	288	2,268	249	761	△ 8	33.6%	△ 4.5
津久見市消防本部	1,192	167	1,122	155	372	70	33.2%	1.9
竹田市消防本部	1,456	121	1,382	121	536	85	38.8%	3.0
豊後高田市消防本部	1,447	272	1,350	244	747	150	55.3%	1.4
宇佐市消防本部	3,091	316	2,877	215	1,272	152	44.2%	2.1
豊後大野市消防本部	2,144	164	2,002	169	770	11	38.5%	△ 2.9
由布市消防本部	1,854	153	1,682	123	1,144	156	68.0%	4.6
国東市消防本部	1,526	66	1,409	65	376	△ 93	26.7%	△ 8.2
日田玖珠広域消防組合消防本部	4,372	605	4,077	539	418	81	10.3%	0.7
杵築速見消防組合消防本部	3,012	255	2,799	214	1,590	11	56.8%	△ 4.3
県計	60,150	7,777	53,187	5,678	9,779	△ 2,132	18.4%	△ 6.7

第1図 救急出動件数及び救急搬送人員の推移



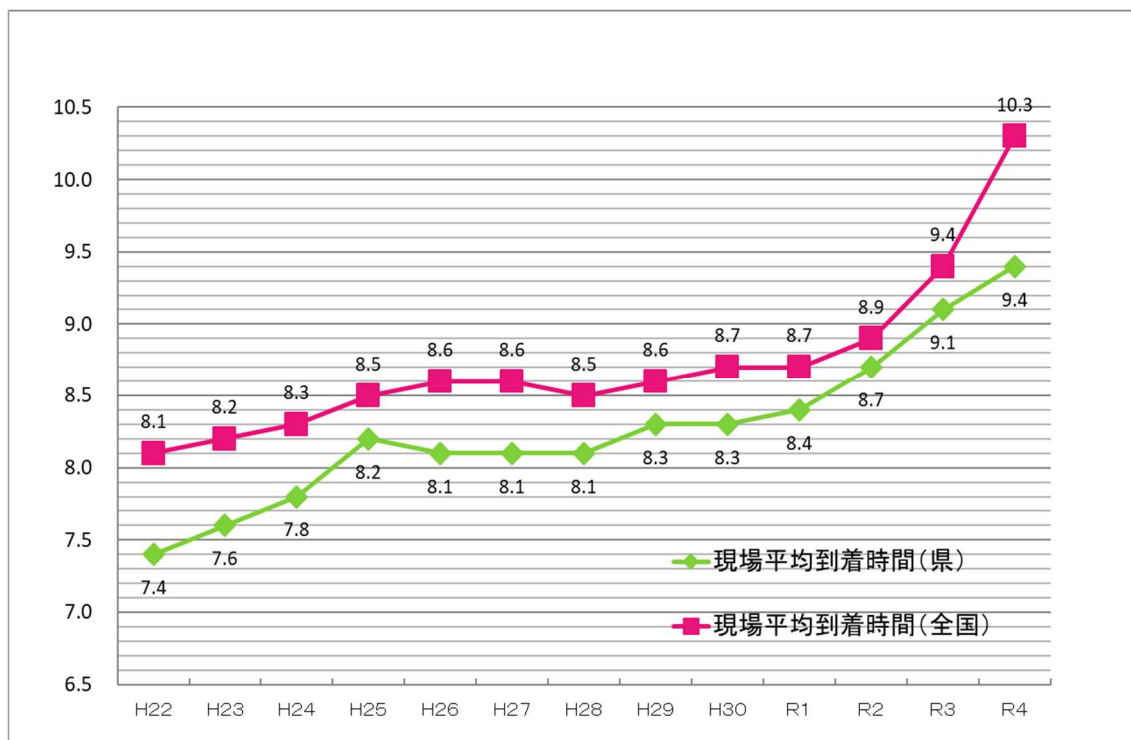
第2図 管外搬送人員の推移



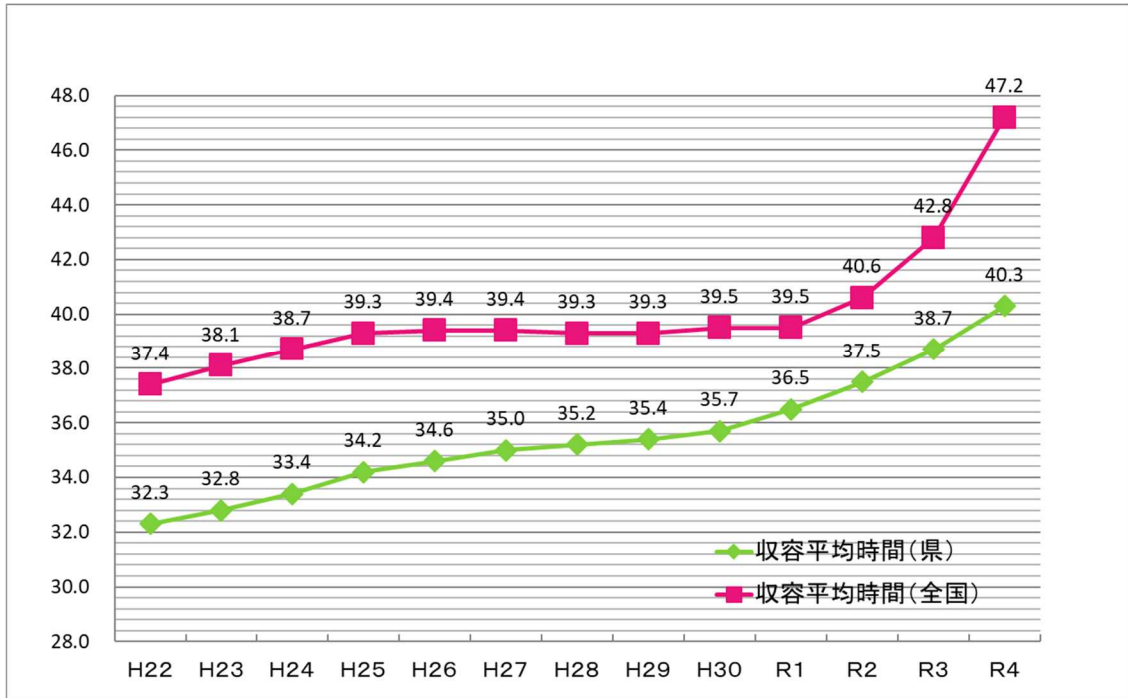
第2表 各消防本部における現場平均到着所要時間及び収容平均所要時間

消防本部	現場到着 平均所要時間(分)		収容 平均所要時間(分)	
		前年比(分)		前年比(分)
大分市消防局	8.4	0.3	36.3	1.8
別府市消防本部	8.9	0.6	33.8	3.0
中津市消防本部	8.8	0.4	38.5	2.2
佐伯市消防本部	11.3	0.1	39.3	△ 0.3
臼杵市消防本部	8.7	0.4	38.6	0.5
津久見市消防本部	11.0	△ 0.2	42.2	△ 0.3
竹田市消防本部	11.7	0.7	49.6	2.5
豊後高田市消防本部	9.4	0.4	47.1	2.3
宇佐市消防本部	9.5	0.4	46.4	2.5
豊後大野市消防本部	11.0	0.9	49.1	2.2
由布市消防本部	9.8	0.6	50.0	4.0
国東市消防本部	8.5	0.3	48.5	△ 0.7
日田玖珠広域消防組合消防本部	11.4	0.2	47.9	0.6
杵築速見消防組合消防本部	12.1	0.8	45.2	1.3
県計	9.4	0.3	40.3	1.6

第3図 現場平均到着所要時間の推移



第4図 病院収容平均所要時間の推移



2 救急搬送の状況

【令和4年中における救急搬送の状況】

1. 事故種別搬送状況

「急病」が最も多く【32,163人【60.5%】】、増加【前年比4,177人増】している。
その他の区分は、横ばい状態である。

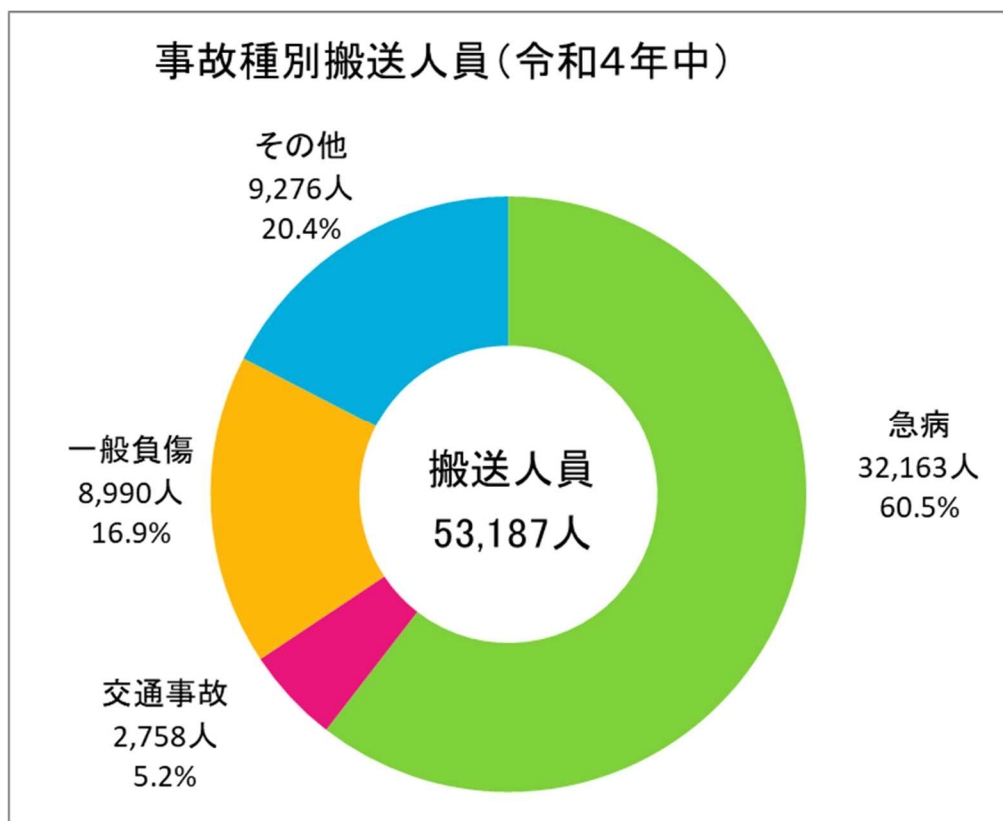
2. 年齢区分別搬送状況

「高齢者」が最も多く【37,179人（69.9%）】、増加【前年比4,092人増】している。
その他の区分は、横ばい状態である。

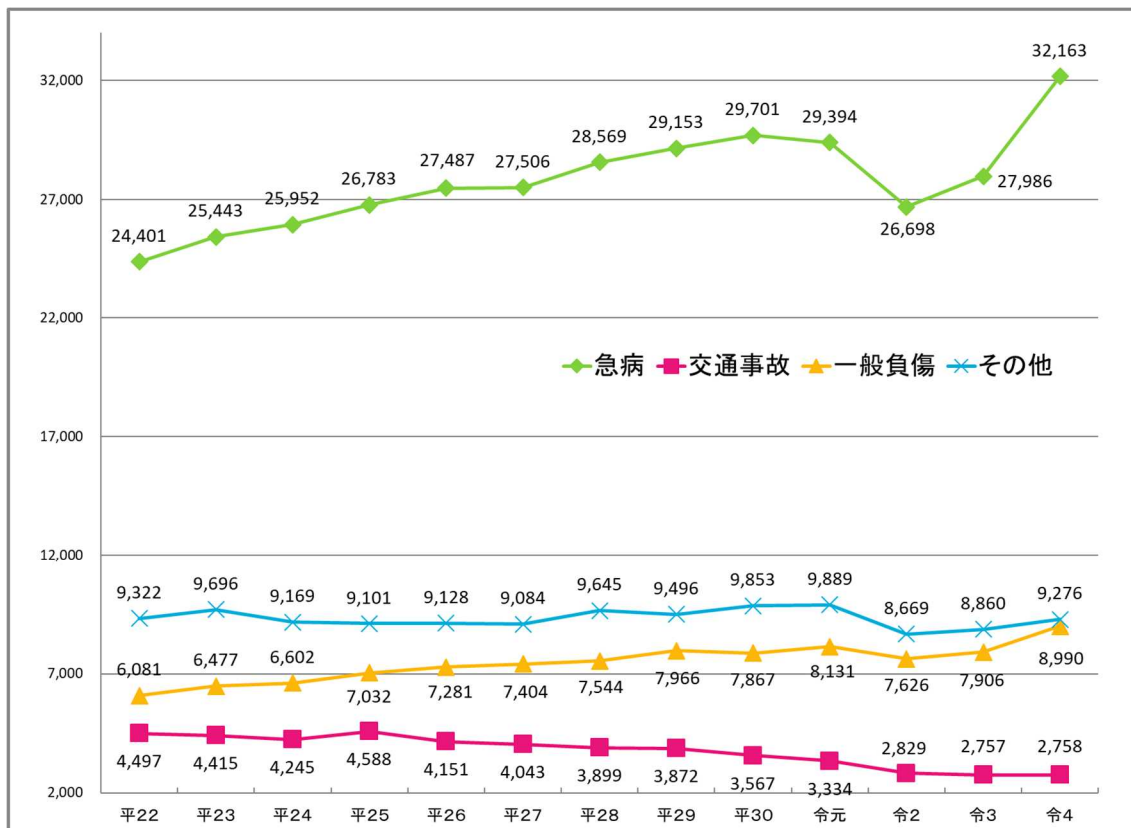
3. 傷病程度別搬送状況

「中等症」が【26,961人（50.7%）】と最も多く、次いで、「軽症」【17,478人（32.9%）】
となっている。

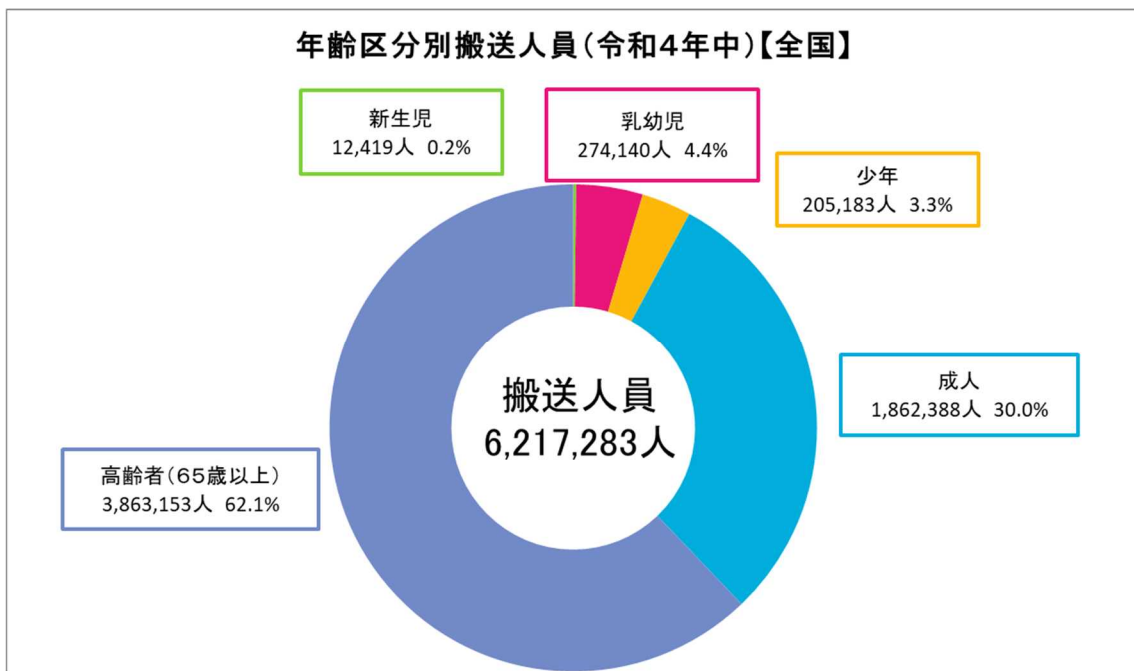
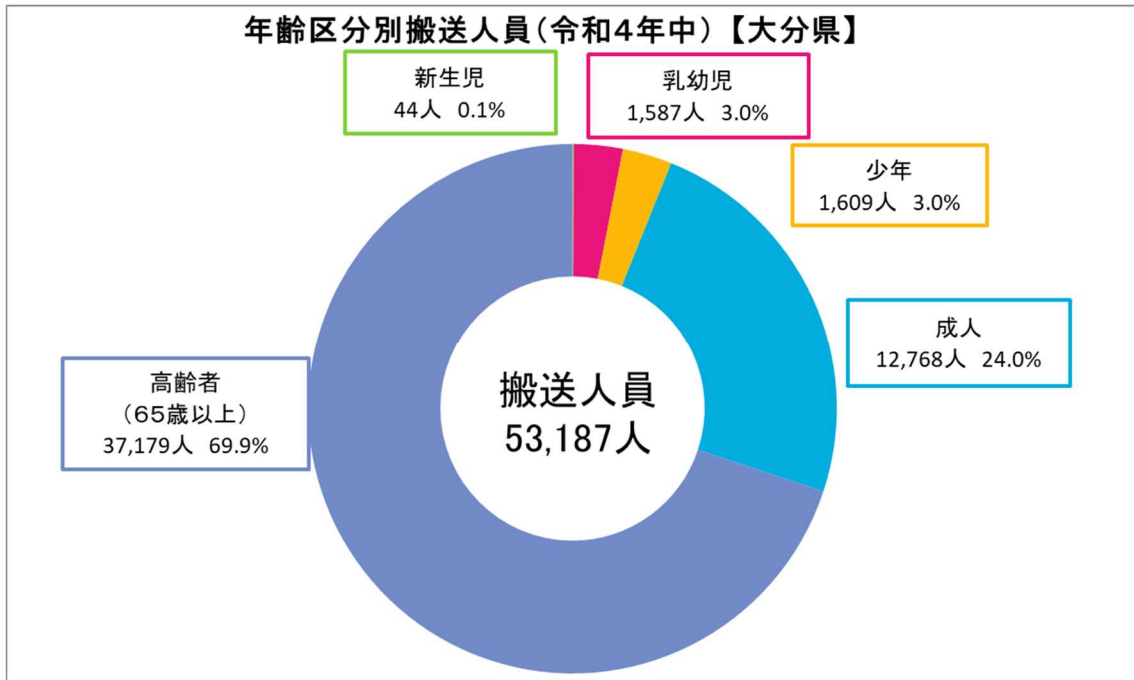
第5図 事故種別搬送人員



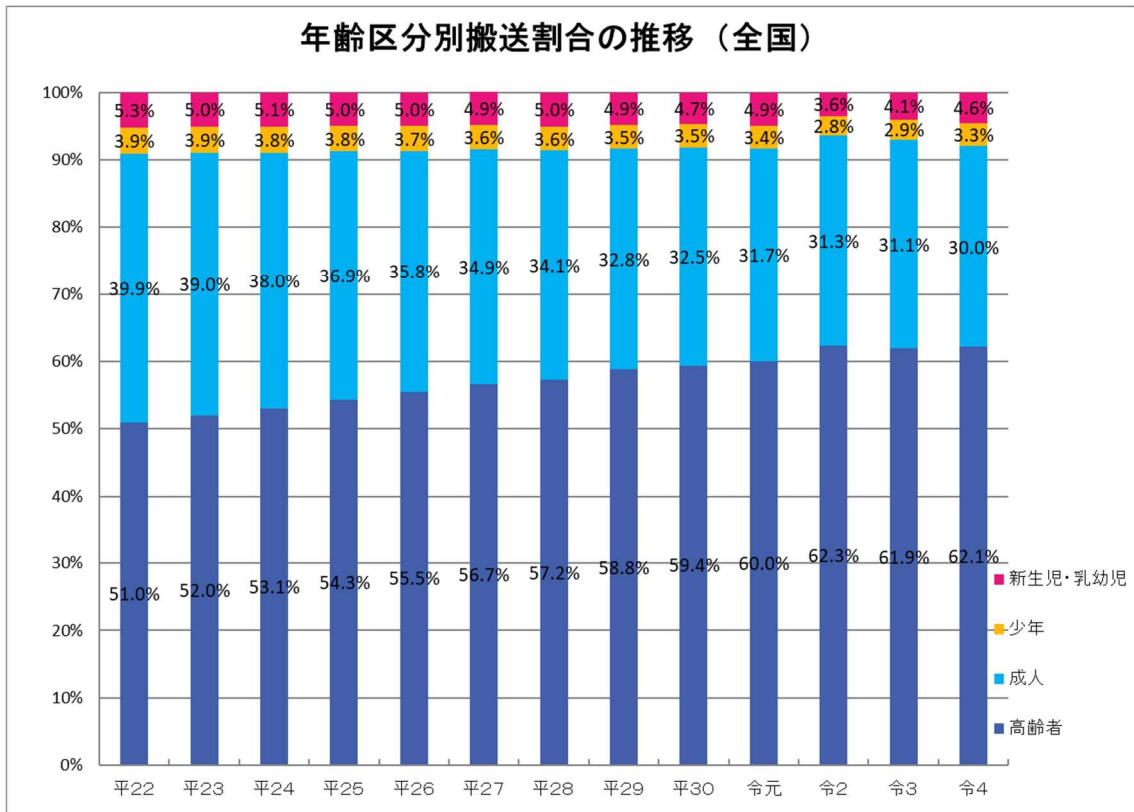
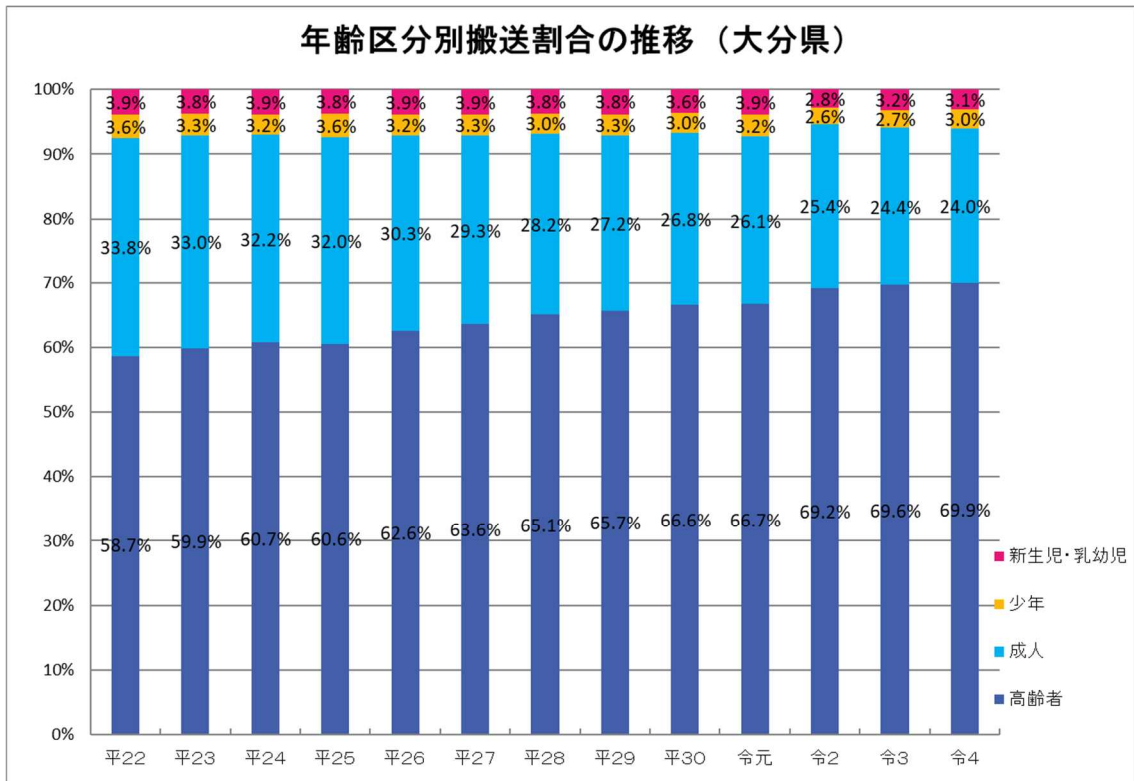
第6図 事故種別搬送人員の推移



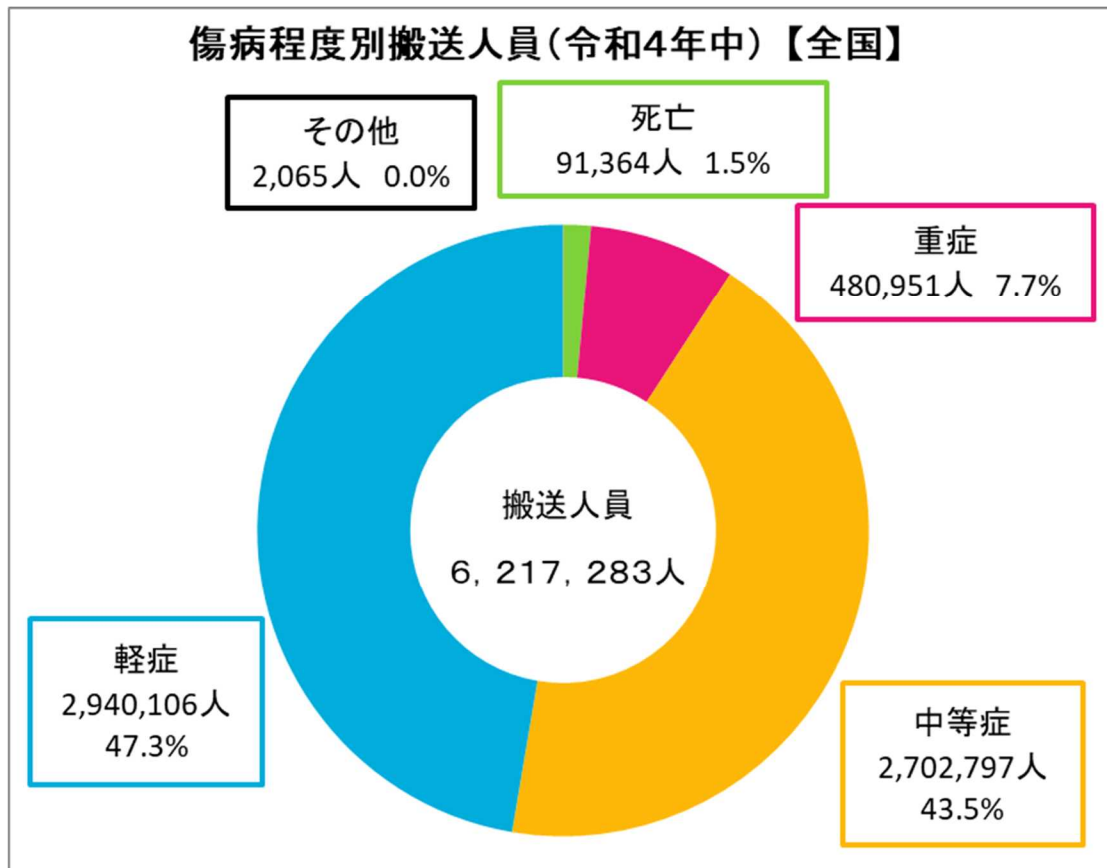
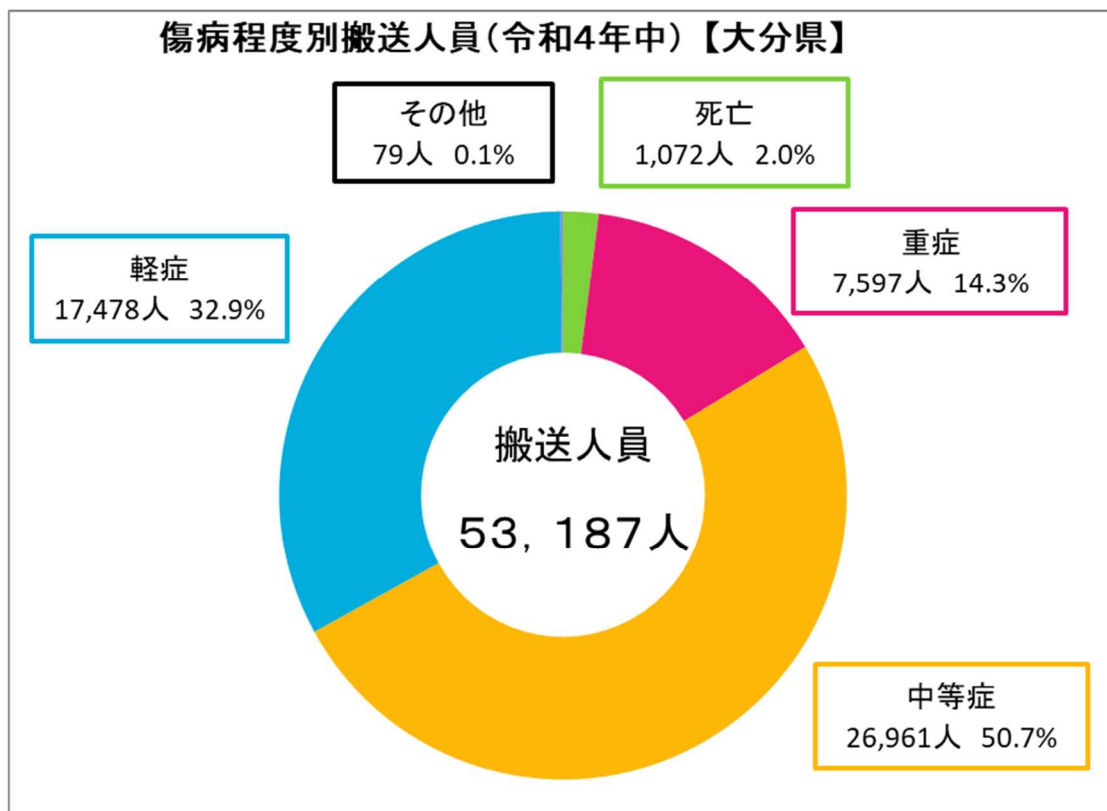
第7図 年齢区分別搬送人員



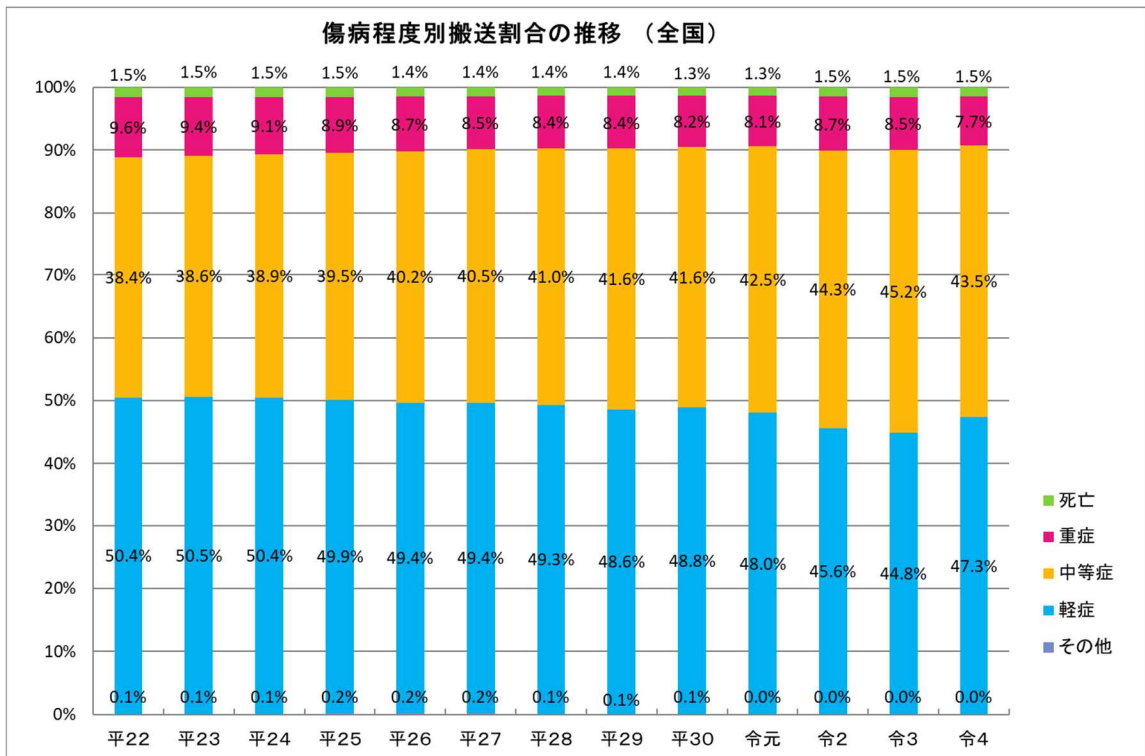
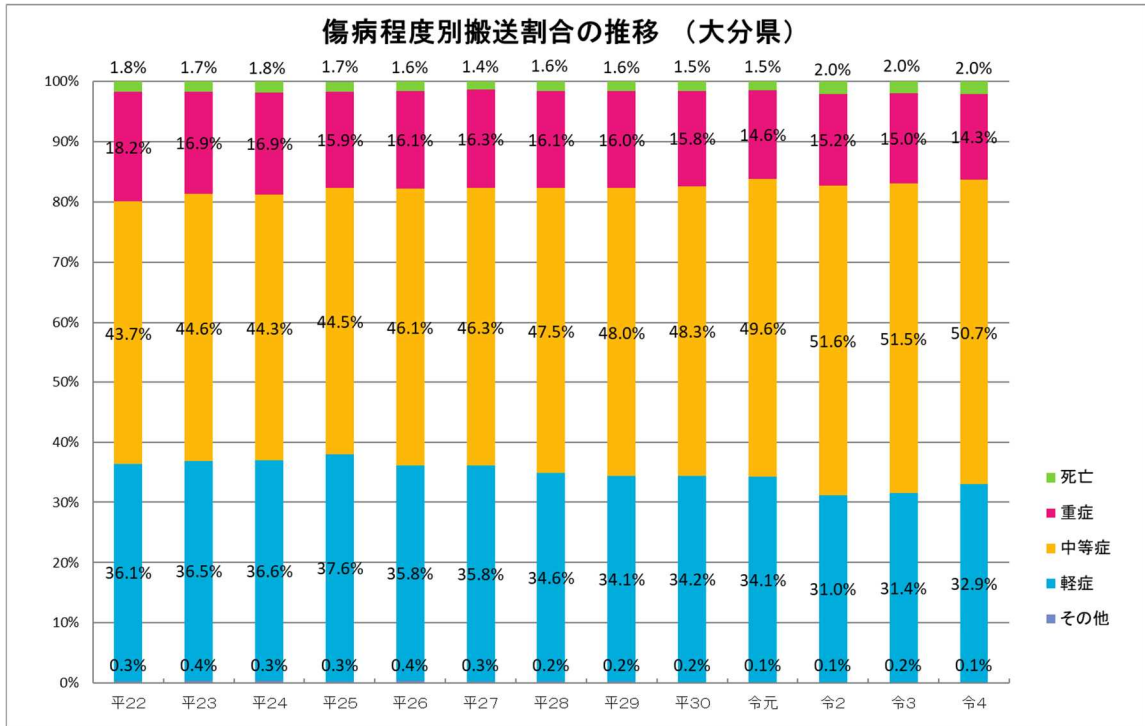
第8図 年齢区別搬送割合の推移



第9図 傷病程度別搬送人員



第10図 傷病程度別搬送割合の推移

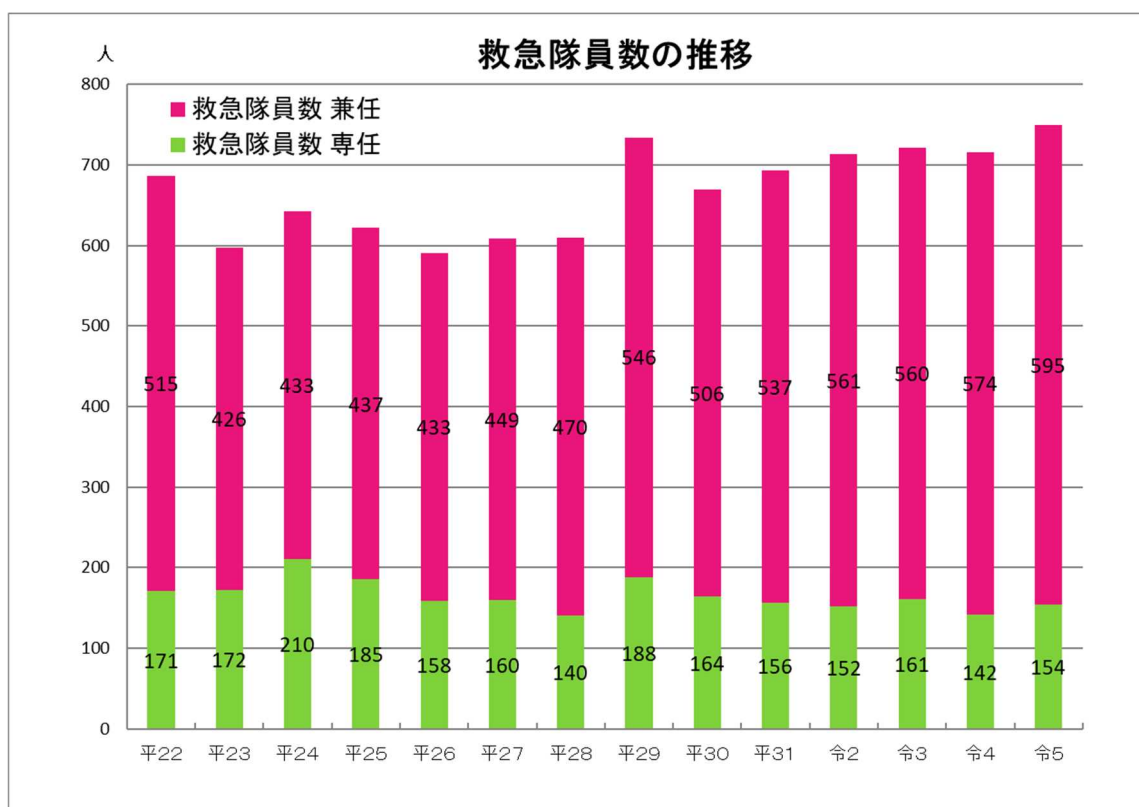


3 救急業務の実施体制

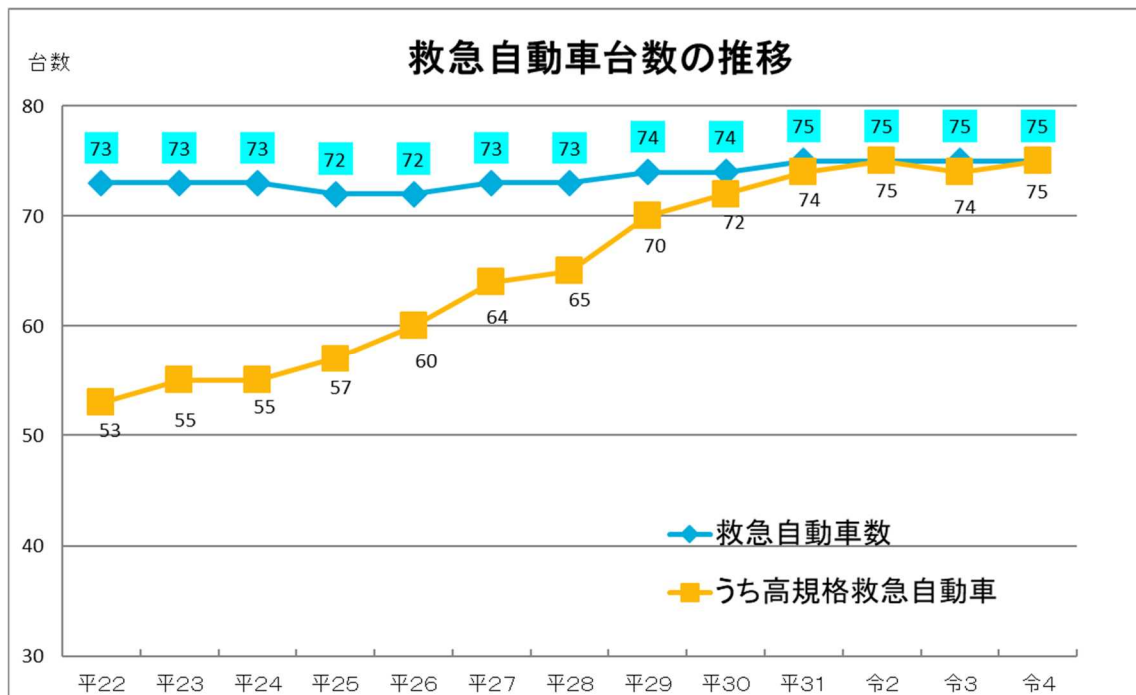
【令和5年4月1日現在の救急業務実施体制】

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 救急業務実施消防本部数 | 14 本部（前年同） |
| 2. 救急隊数 | 60 隊（前年同） |
| 3. 救急隊員数 | 749 人（前年比 33 人増） |
| 4. 救急自動車数 | 75 台（前年同） |
| 5. うち高規格救急自動車 | 75 台（前年同） |
| 6. 高規格救急自動車導入率 | 100 %（前年同） |
- 【全国平均 98.3 %】

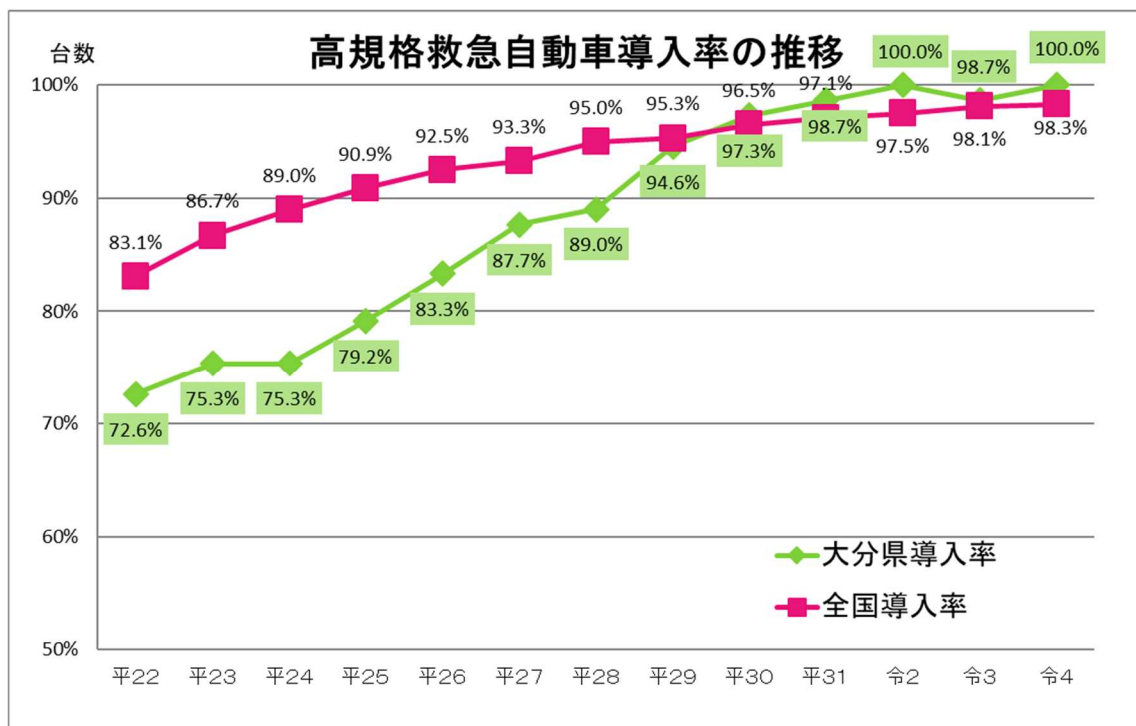
第11図 救急隊員数の推移



第 1 2 図 救急自動車台数の推移



第 1 3 図 高規格救急自動車導入率の推移



【令和5年4月1日現在の救急救命士活動状況】

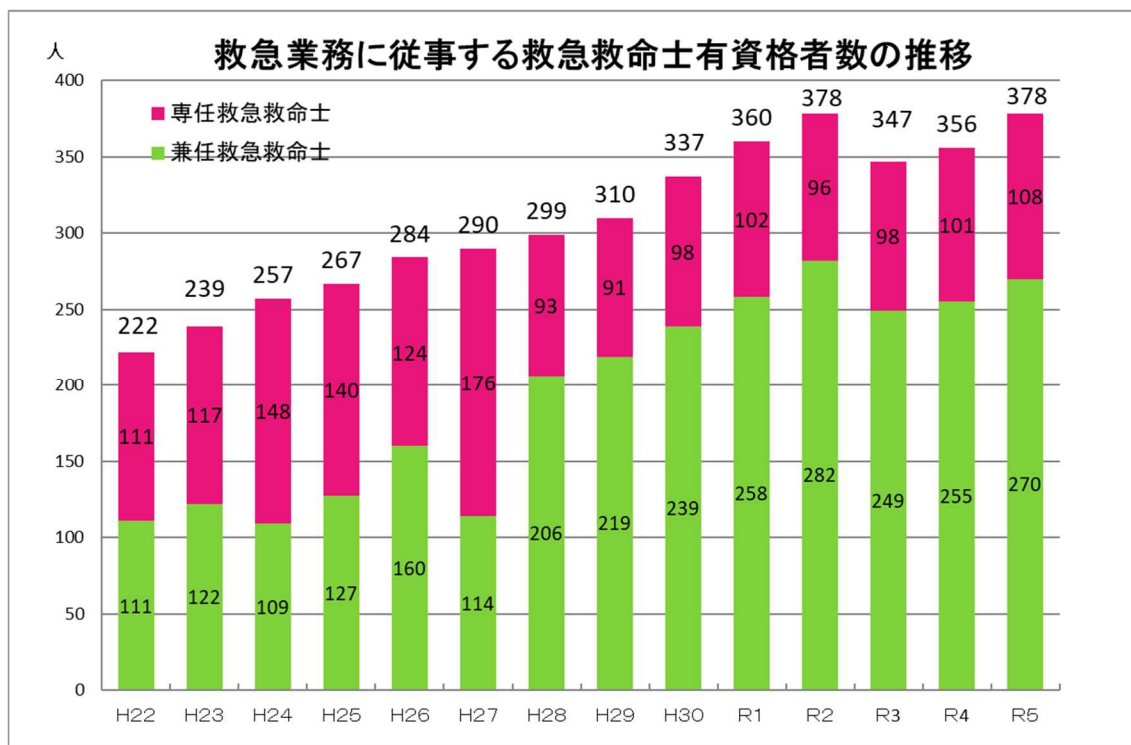
1. 救急救命士有資格者数	500 人（前年比2人減）
2. うち救急業務従事者数	378 人（前年比22人増）
3. うち救急業務専任者数	108 人（前年比7人増）
4. 救急救命士運用隊数	60 隊（前年同）
5. 救急救命士運用率	100 %（前年同）【全国平均 99.6%】
	（救急救命士所属隊数／総救急隊数）

第3表 各消防本部における救急業務に従事する救急救命士数（単位：人）

（令和5年4月1日現在）

消防本部	救急救命士 有資格者数	救急業務に従事する救急救命士		
			うち専任	うち兼任
大分市消防局	114	73	59	14
別府市消防本部	28	22	22	0
中津市消防本部	37	29	6	23
佐伯市消防本部	49	40	0	40
臼杵市消防本部	28	20	0	20
津久見市消防本部	15	15	0	15
竹田市消防本部	28	23	0	23
豊後高田市消防本部	20	28	0	19
宇佐市消防本部	29	13	9	13
豊後大野市消防本部	31	21	0	21
由布市消防本部	21	16	0	16
国東市消防本部	29	20	0	20
日田玖珠広域消防組合消防本部	41	41	0	41
杵築速見消防組合消防本部	30	17	12	5
県計	500	378	108	270

第14図 救急業務に従事する救急救命士有資格者数の推移

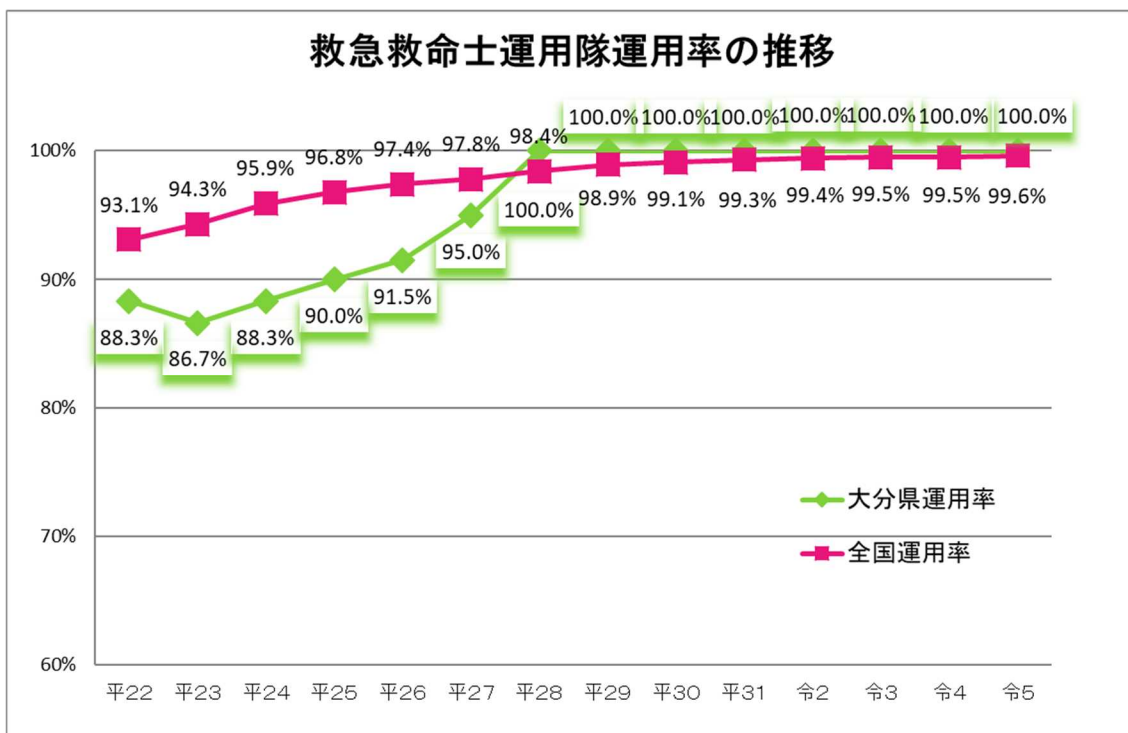


第4表 各消防本部における救急救命士運用率

(令和5年4月1日現在)

消防本部名	署所数	救急隊数	救急救命士運用隊数			
			運用隊数		うち常時	
			隊数	運用率	隊数	運用率
大分市消防局	14	13	13	100%	13	100%
別府市消防本部	4	4	4	100%	4	100%
中津市消防本部	3	4	4	100%	4	100%
佐伯市消防本部	5	6	6	100%	5	83%
臼杵市消防本部	2	3	3	100%	2	67%
津久見市消防本部	1	1	1	100%	0	0%
竹田市消防本部	2	3	3	100%	3	100%
豊後高田市消防本部	2	2	2	100%	2	100%
宇佐市消防本部	3	3	3	100%	3	100%
豊後大野市消防本部	4	4	4	100%	4	100%
由布市消防本部	3	3	3	100%	3	100%
国東市消防本部	4	3	3	100%	3	100%
日田玖珠広域消防組合消防本部	5	8	8	100%	8	100%
杵築速見消防組合消防本部	3	3	3	100%	3	100%
計	55	60	60	100%	57	95.0%

第15図 救急救命士運用率の推移



4 救急救命処置の実施状況等

【令和4年中における救急隊員による救急救命処置の実施状況】

静脈路確保、器具による気道確保（気管挿管）、薬剤投与、ブドウ糖投与の各特定行為実施件数は、前年より増加しているが、除細動の実施件数は、前年より減少している。心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与（ブドウ糖投与）は平成28年より可能となっている。

1. 除細動	105 件（前年比 12 件減）
2. 静脈路確保	1121 件（前年比 189 件増）
3. 器具による気道確保	728 件（前年比 119 件増）
うち気管挿管	408 件（前年比 66 件増）
4. 薬剤投与	691 件（前年比 148 件増）
5. ブドウ糖投与	97 件（前年比 16 件増）

第5表 救急救命処置実施件数（単位：件）

消防本部	除細動	静脈路確保	器具による気道確保		薬剤投与	ブドウ糖投与
				うち気管挿管		
大分市消防局	28	363	268	253	237	37
別府市消防本部	15	148	98	6	80	9
中津市消防本部	10	83	65	9	56	4
佐伯市消防本部	3	66	27	24	59	6
臼杵市消防本部	3	35	34	19	23	4
津久見市消防本部	4	21	11	10	10	0
竹田市消防本部	2	33	21	21	12	4
豊後高田市消防本部	3	19	31	11	15	3
宇佐市消防本部	10	50	46	18	36	2
豊後大野市消防本部	3	46	26	15	30	4
由布市消防本部	10	22	7	7	16	4
国東市消防本部	3	48	35	2	31	2
日田玖珠広域消防組合消防本部	6	101	36	13	53	12
杵築速見消防組合消防本部	5	86	23	0	33	6
県計	105	1121	728	408	691	97

※「器具による気道確保」には、経鼻エアウェイにより気道確保を行った件数及び喉頭鏡・鉗子等を使用して異物除去を行った件数を除く

（令和4年中）

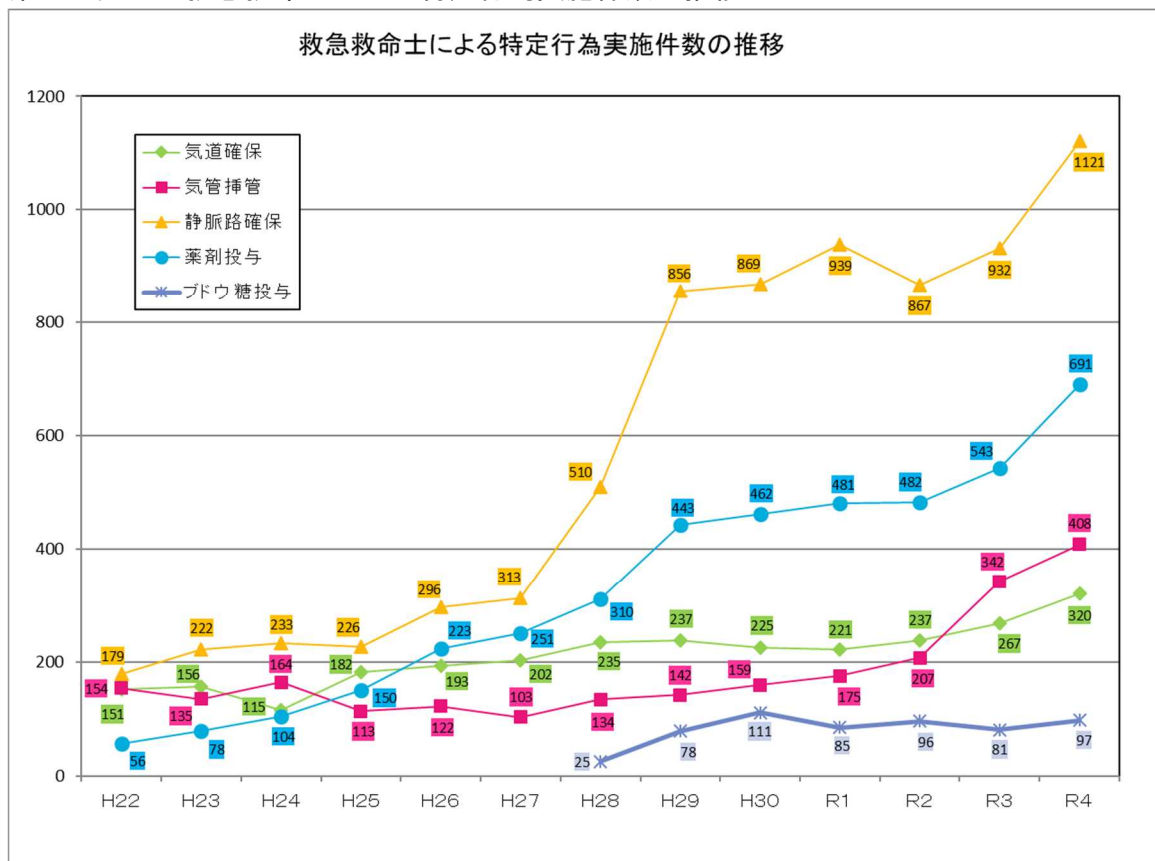
第6表 救急救命士による特定行為の実施状況

対象年	救急救命士数 (運用数)	気管挿管 認定者数	薬剤投与 認定者数	ショックへの 輸液・ブドウ 糖投与	対象年	救急出動 件数	気道確保 ※1	気管挿管 ※2	静脈路 確保	薬剤投与	ブドウ糖 投与
H21.4.1	202	71	73		平成20年	44,776	183	128	117	41	
H22.4.1	222	96	92		平成21年	44,754	168	130	138	48	
H23.4.1	239	106	148		平成22年	46,898	151	154	179	56	
H24.4.1	257	113	182		平成23年	48,679	156	135	222	78	
H25.4.1	267	116	215		平成24年	48,786	115	164	233	104	
H26.4.1	284	116	241		平成25年	50,491	182	113	226	150	
H27.4.1	290	114	261		平成26年	51,393	193	122	296	223	
H28.4.1	299	111	276	68	平成27年	51,393	202	103	313	251	
H29.4.1	310	119	281	167	平成28年	54,177	235	134	510	310	25
H30.4.1	337	124	290	232	平成29年	55,310	237	142	856	443	78
H31.4.1	360	153	343	315	平成30年	55,755	225	159	869	462	111
R2.4.1	378	160	352	323	令和元年	55,555	221	175	939	481	85
R3.4.1	347	145	329	323	令和2年	50,796	237	207	867	482	96
R4.4.1	356	159	339	338	令和3年	52,373	267	342	932	543	81
R5.4.1	378	176	357	354	令和4年	60,150	320	408	1121	691	97

※1 救急救命士がラリゲアルマスク等(LT、WB、CB、EGTA等)を使用して行ったもの

※2 救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行ったもの

第16図 救急救命士による特定行為実施件数の推移



【令和4年中における消防機関による応急手当普及講習の実施状況等】

令和4年中に消防機関が行った応急手当普及講習の修了者数は、4,242人となっている。

第7表 応急手当普及講習修了者数の推移

区分	住民に対する応急手当普及講習修了者数		
	普通救命講習	上級救命講習	合計
平成18年	9,021	520	9,541
平成19年	11,599	301	11,900
平成20年	12,092	381	12,473
平成21年	9,767	412	10,179
平成22年	9,873	404	10,277
平成23年	9,939	361	10,300
平成24年	12,520	416	12,936
平成25年	11,032	323	11,355
平成26年	11,005	314	11,319
平成27年	12,586	332	12,918
平成28年	9,939	249	10,188
平成29年	10,481	296	10,777
平成30年	10,264	305	10,569
令和元年	9,803	256	10,059
令和2年	3,663	148	3,811
令和3年	4,156	115	4,271
令和4年	4,116	126	4,242
合計	161,856	5,259	167,115